

E 11 家政学における研究の国際比較について

大妻女大家政 ○岡田安代 大竹智恵子 大森正司 岡本順子, 東京農大農  
加藤みゆき, 大妻高校 徳増レゲ子, 岐阜大教育 長野宏子, 図書館情報大  
佐々木敏雄

目的 前報までにおいて連関分析用分類表(家政科学技術分類表, C H E)を作成し、  
これを用いて家政学会大会講演要旨研究内容の分析を行ってきた。今回は、このデータベ  
ースである分類表を用いて国際比較を行い、家政学の構造を明らかにする事を目的とした。

方法 日本家政学会誌研究課題 574件、米国(J. Home Economics, Home Economics Re-  
search J.) 374件、印度(Indian J. of Home Science) 45件を対象に C H E でインデクシ  
ング、マークレ集計した。

- 結果 ① 付与された要素技術の数は、平均日本 5.4、米国 4.1、印度 3.3 であった。  
② 出現頻度の順位は、日本では「食品、生活空間」、「有史時代、生物の性」、「物理、化  
学的物質」、米国では「家庭経営」、「教育、余暇、交際」、「有史時代、生物の性」、印度  
では「食品、生活空間」、「有史時代、生物の性」、「教育、余暇、交際」の順であった。  
③ 累積出現頻度で 70% をカバーする要素技術の範囲は、日本 150、米国 68、印度 40 であ  
った。